

下水道機構ビジョンの 【アクションプラン】を策定

下水道機構では、平成19年9月に設立15周年を迎えることから、これまでの15年間の歩みを踏まえて次のステージをめざすため、今後の15年を目標期間とする「下水道機構ビジョン」を策定しました。ビジョンでは下水道技術を核に産・学・官とエンドユーザーである国民がともに喜び合えるWin-Winの関係を構築するため、77の行動指針を掲げました。

これらビジョンの行動指針を具現化するため、さらにアクションプランを策定し、足元を見つめながら業務への反映、あるいは新たな取組みを進めることとしました。アクションプラン策定にあたり、具体的な道筋を示すためニーズ分析に重点をおきました。ニーズについて大きく社会・地域ニーズと顧客ニーズに分類し、それぞれの重みを踏まえて2年以内に実現あるいは着手すべきプラン、重要ではあるが物理的、時間的に中期以降に検討実施すべきプランとして重要度・優先度を整理しました。

2008年度に着手するアクションプランを体系的に示します。これらのプランの2年以内の効果発現、あるいは土台の整備に向けて業務に取り組んでまいります。

◆ 研究制度の進化・発展

- ◇ リーディングプロジェクトの推進
- ◇ 「技術移転型共同研究制度」の創設
- ◇ 「管理者参加型共同研究」の創設
- ◇ 大学・研究機関との共同研究の実施
- ◇ ローカルスタンダード技術等の開発・普及

◆ 審査証明制度の進化・発展

- ◇ 公募型審査証明制度の創設
- ◇ 簡易型審査証明制度の整備

◆ 新技術導入を促すソフト支援

- ◇ 積算環境改善提案

◆ 情報・知的財産の管理強化

- ◇ 戦略的な情報の交換と発信
- ◇ 「下水道機構情報管理活用システム」の構築準備
- ◇ 知的財産の管理強化

◆ 業務運営の再構築

- ◇ フォローアップ制度の導入
- ◇ 委員会運営管理の強化
- ◇ 業務全般に係るPDCAマネジメントの強化
- ◇ 人材活用と戦略的な組織改革

◆ 関連団体との連携促進

- ◇ 海外主要関係機関との連携強化の取組み